

白銅株式会社(7637)

2023年3月期 決算説明資料

2023年5月12日

目次

1. 2023年3月期 決算内容 P 2
2. 2024年3月期 業績予想 P19
3. 中期経営計画1年目の進捗状況と
達成に向けた取り組み P22

2023年3月期 決算内容

決算ハイライト

売上高

61,602百万円
(前連結会計年度比+11.1%)

売上総利益

10,152百万円
(前連結会計年度比▲1.5%)

経常利益

3,988百万円
(前連結会計年度比▲8.8%)

2023年3月期サマリ

売上高

- ・原材料市況の影響による販売単価の上昇を主因とし、2023年3月期売上高は過去最高額を更新した
- ・前連結会計年度比でも全品種で売上が増加した

売上総利益

- ・売上高増加に伴い第3四半期時点では過去最高額を更新していたが、製造に関わる電気代・人件費増加の影響や、主力の半導体製造装置業界の停滞により4Qに売上高が大きく減少したことにより、前連結会計年度比では△157百万円となった

経常利益

- ・運賃等の増加や、4Qに米国において買収に関する一時的な費用が発生したことで、前連結会計年度比で販売費及び一般管理費は+321百万円となり、経常利益は△384百万円となった

連結損益計算書（PL）サマリ

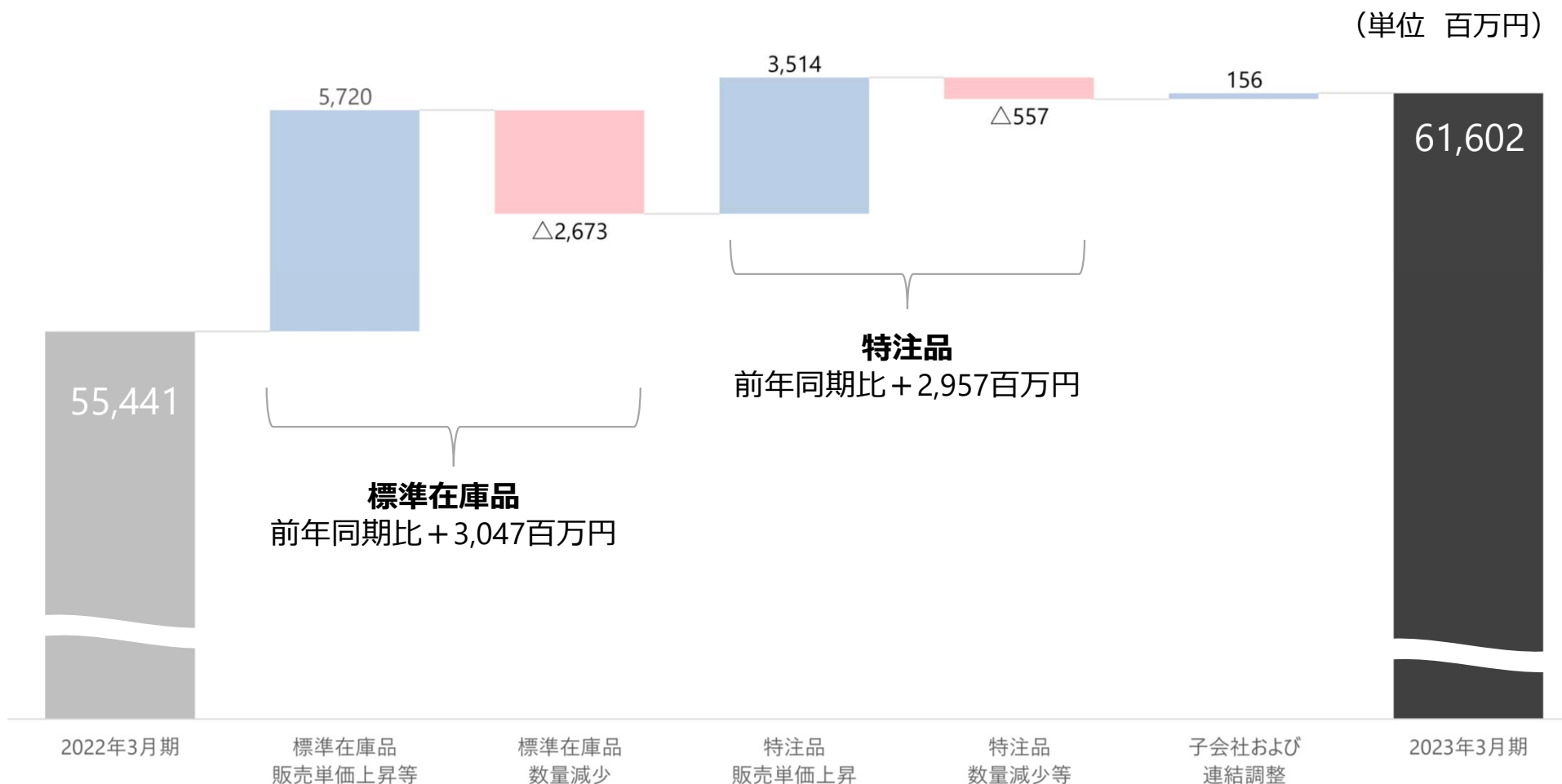
- 売上高は過去最高額を記録した前年を11.1%上回り、過去最高額を更新
- 経常利益では、一時費用の計上および各種コストの増加や棚卸資産影響額による差益の減少により、前連結会計年度比△8.8%となった

単位：百万円

	2022年3月期	売上高 比率	2023年3月期	売上高 比率	増減率
売上高	55,441	-	61,602	-	11.1%
標準在庫品	35,625	64.3%	38,322	62.2%	7.6%
特注品	19,815	35.7%	23,279	37.8%	17.5%
売上総利益	10,309	18.6%	10,152	16.5%	△1.5%
営業利益	4,256	7.7%	3,777	6.1%	△11.2%
経常利益	4,373	7.9%	3,988	6.5%	△8.8%
棚卸資産影響額（△は損）	610	-	499	-	△18.1%
為替差損益（△は損）	20	-	20	-	1.1%
経常利益 (棚卸資産・為替影響を除く)	3,743	6.8%	3,468	5.6%	△7.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,964	5.3%	2,737	4.4%	△7.6%

売上高の前連結会計年度比差異要因

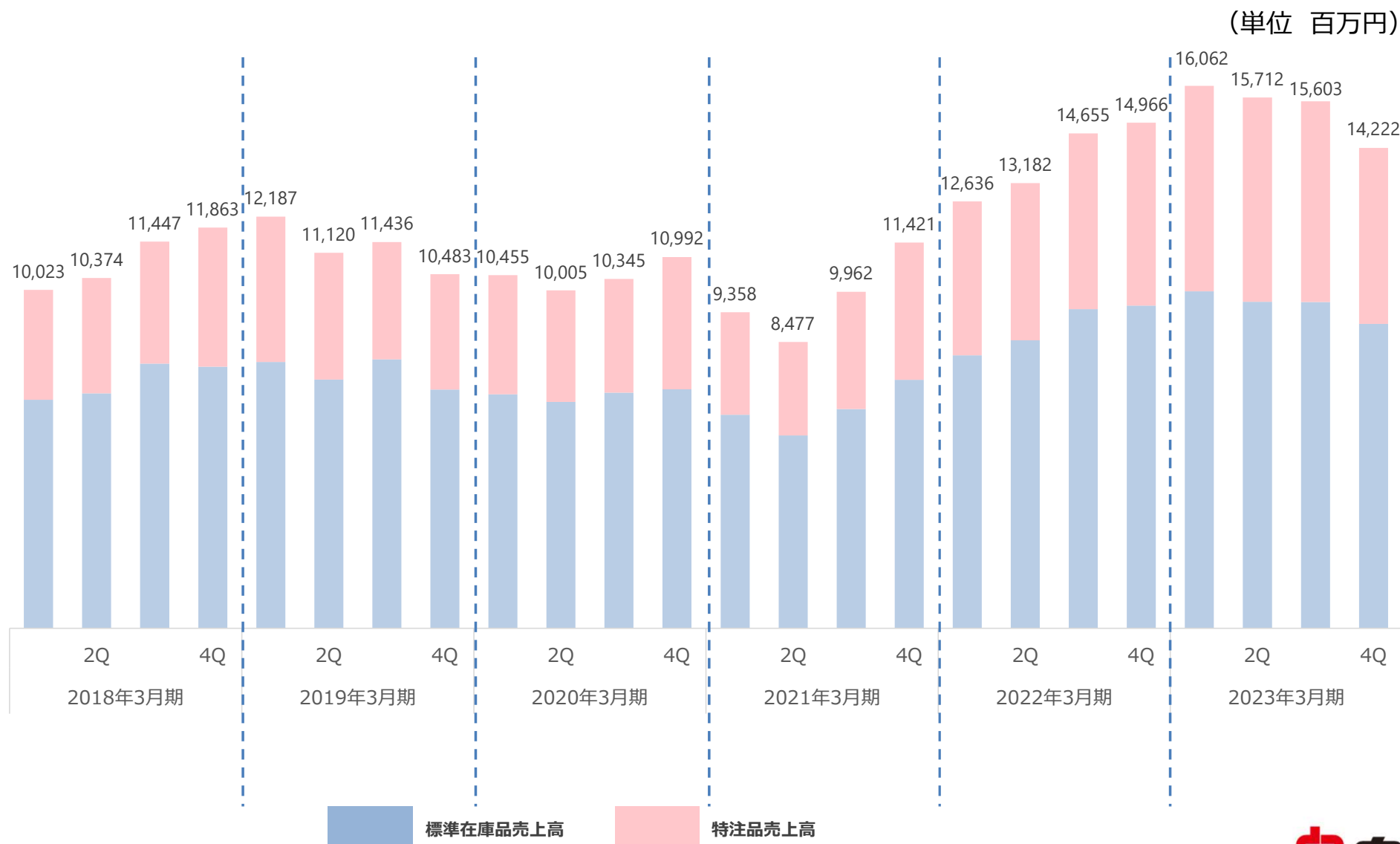
- 標準在庫品、特注品ともに数量は減少したものの、販売単価の上昇により前連結会計年度比で6,161百万円増加



前連結会計年度比 白銅個別標準在庫品 販売重量：△8% 販売単価：+17%

売上高の四半期毎推移

- 通期では過去最高を更新するも、半導体製造装置業界向けの売上減少を主因とし前年4Q期間比では△743百万円の減少



品種別売上高

- 通期では全品目で売上高増加となるものの、半導体製造装置業界向けの売上減少を主因とし、アルミニウム製品の売上高は前年4Q期間比で減少
- アルミニウム以外の品種は前年4Q期間比でも増加

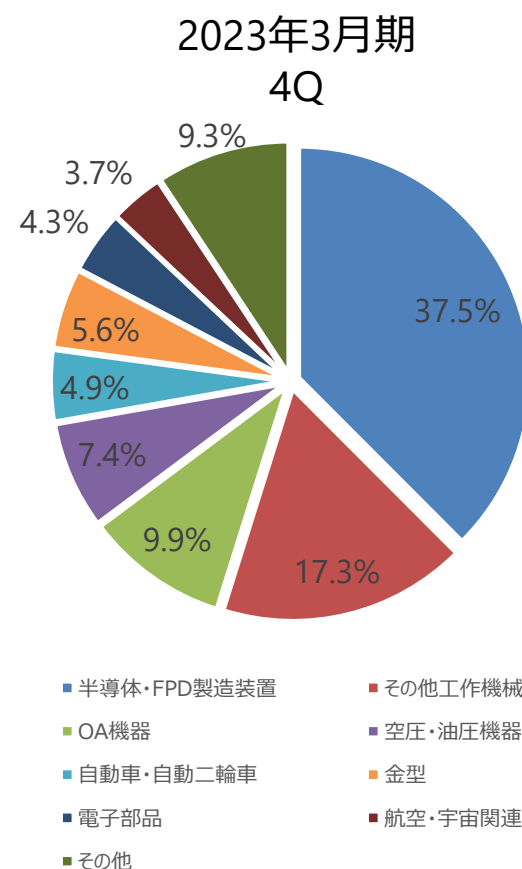
単位：百万円

	2022年 3月期				計	2023年 3月期				計	前年 4Q 期間比	前連結 会計年 度比
	1Q	2Q	3Q	4Q		1Q	2Q	3Q	4Q			
連結売上高	12,636	13,182	14,655	14,966	55,441	16,062	15,712	15,603	14,222	61,602	△5.0%	11.1%
アルミニウム	8,242	8,654	9,563	9,905	36,365	10,694	10,249	10,076	8,800	39,821	△11.2%	9.5%
伸銅	1,780	1,766	2,033	1,919	7,499	2,106	2,010	2,134	2,248	8,500	17.2%	13.3%
ステンレス	1,991	2,116	2,301	2,385	8,795	2,565	2,607	2,632	2,414	10,218	1.2%	16.2%
その他	621	645	756	756	2,781	696	844	761	759	3,061	0.4%	11.4%

業種別売上高構成比率（国内）

- 2023年3月期1Qから徐々に半導体・FPD製造装置向けの比率が減少
- その他工作機械や金型、航空・宇宙関連の売上比率が増加

	2023年3月期 1Q	2023年3月期 2Q	2023年3月期 3Q	2023年3月期 4Q
半導体・FPD 製造装置	47.2%	45.0%	43.0%	37.5%
その他工作機械	15.0%	15.4%	15.5%	17.3%
OA機器	8.6%	7.8%	8.6%	9.9%
空圧・油圧機器	6.5%	6.9%	7.8%	7.4%
自動車 (自動二輪)車	4.3%	4.9%	4.9%	4.9%
金型	4.1%	4.7%	5.2%	5.6%
電子部品	3.7%	4.1%	4.0%	4.3%
航空・宇宙関連	3.1%	2.9%	3.1%	3.7%
その他	7.6%	8.3%	7.8%	9.3%



セグメント別業績

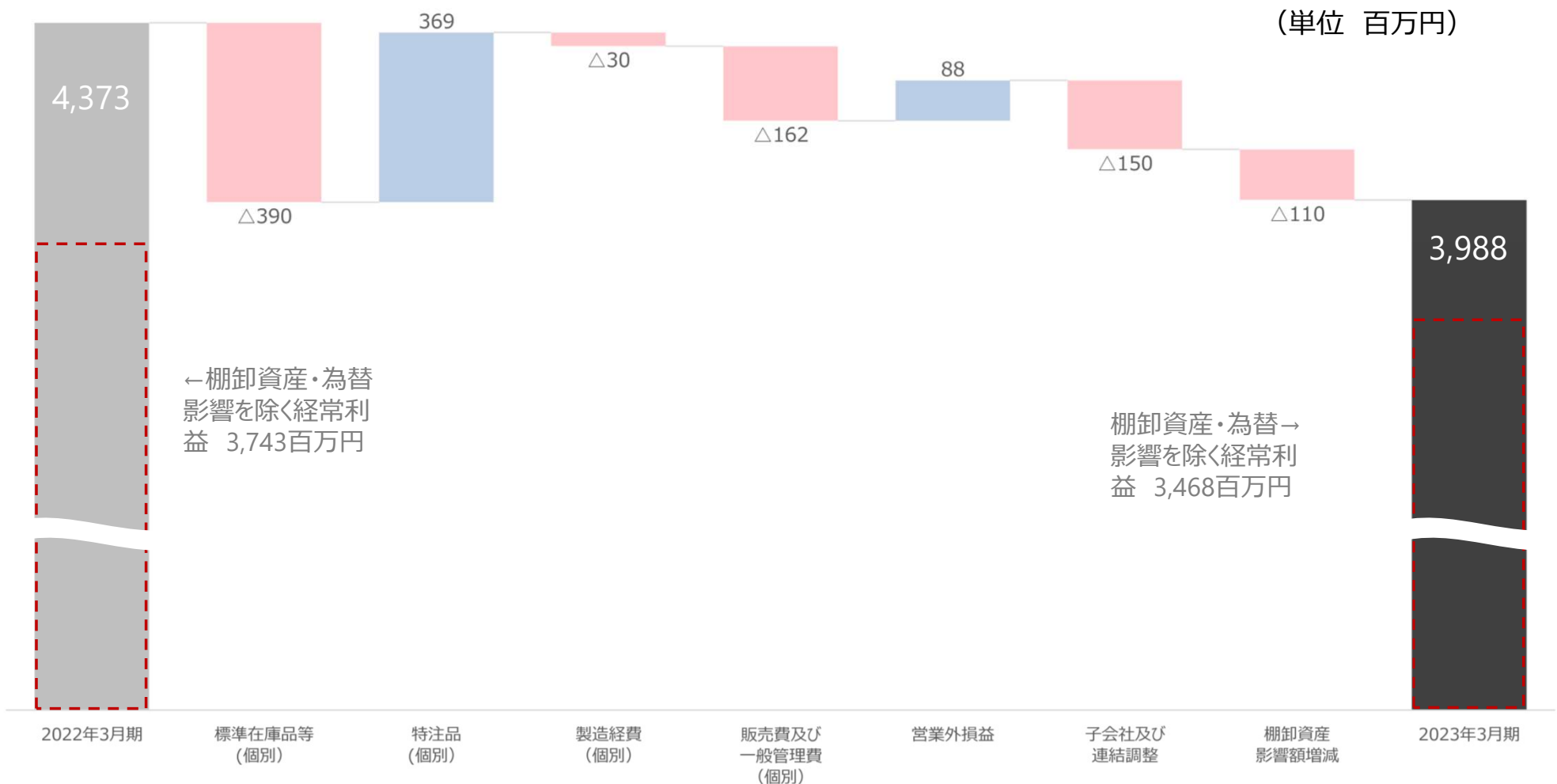
- 北米ではWest Coast Aluminum & Stainless, LLC（以下WCAS社）の持分取得に伴う一時費用を計上。WCAS社の業績は2024年3月期より計上
- 中国は中国国内における新型コロナウイルスの行動制限等の影響により減収減益。営業外収益は不動産収入（工場の賃貸）によるもの

単位：百万円

	2022年 3月期				2023年 3月期			
	売上高	営業損益	経常損益	親会社株式 に帰属する 当期純利益	売上高	営業損益	経常損益	親会社株式 に帰属する 当期純利益
日本	52,839	4,104	4,201	2,829	58,803	3,810	3,995	2,776
北米	-	-	-	-	-	△126	△126	△126
中国	1,719	70	93	73	1,581	△0	25	14
その他	882	81	78	61	1,216	93	94	72

経常利益の前連結会計年度比差異要因

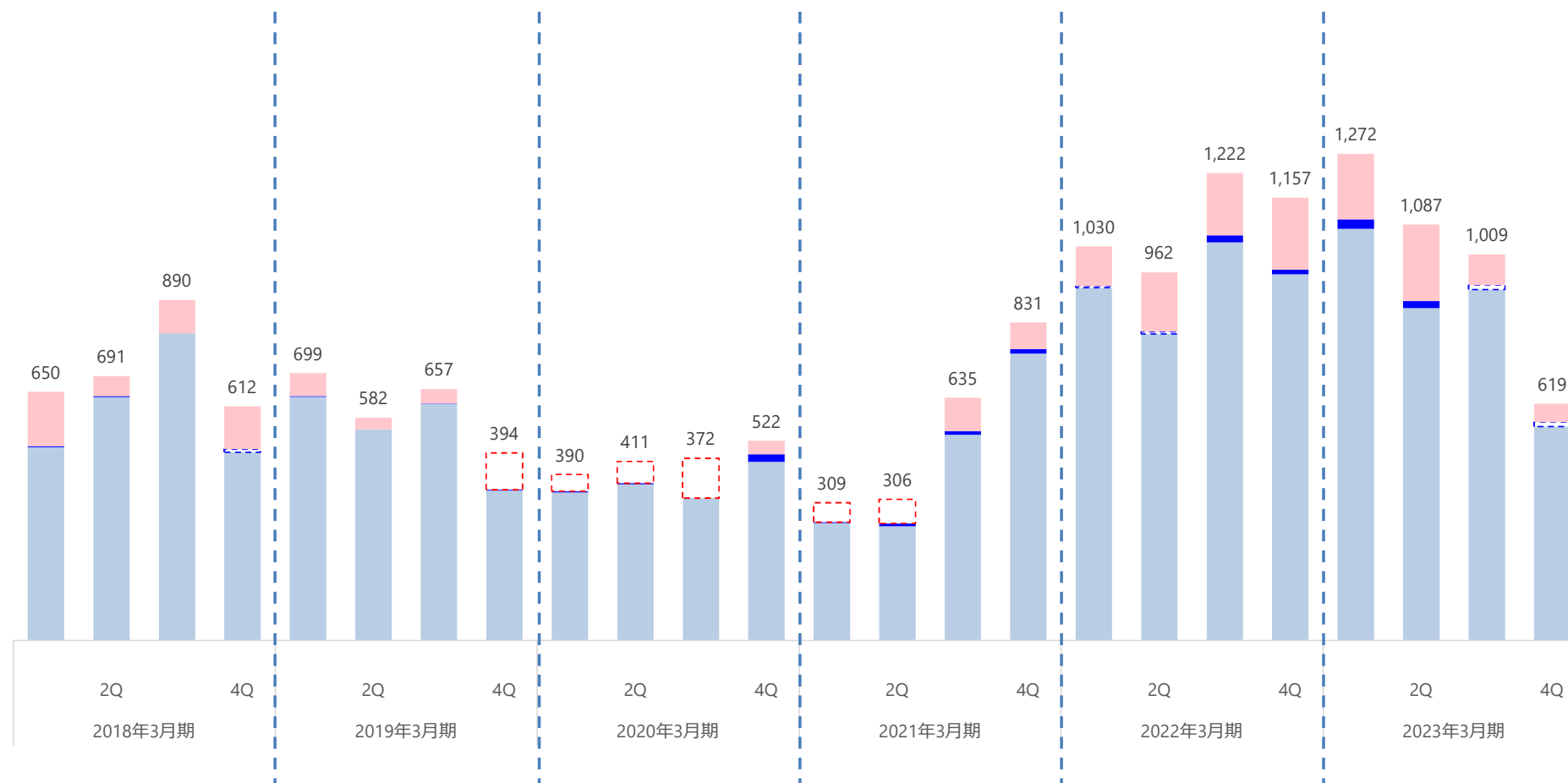
- 売上高は過去最高を更新も、運賃や電気料金をはじめとする各種コストの上昇やWCAS社持分取得に関する一時費用などにより△384百万円の減益



経常利益の四半期毎推移

- 2023年3月期4Qは、販売重量減少に伴う売上高減少や棚卸資産影響額による差益の減少、WCAS社の持分取得に伴う一時費用等を計上したことで、3Q期間比で△390百万円減少した

単位：百万円



棚卸資産・為替影響を除く経常利益

棚卸資産影響額 (益)

棚卸資産影響額 (損)

為替差益

為替差損

貸借対照表 (BS)

- 2024年3月期下半期以降の半導体需要の回復を見込み、在庫を積み増したことで棚卸資産が増加
- WCAS社の持分取得に伴い、約8億円ののれんを計上

単位：百万円

資産の部	2022年3月末	構成比率	2023年3月末	構成比率	増減
流動資産	33,615	80.5%	33,829	78.4%	+213
現金及び預金	8,674	20.8%	6,038	14.0%	△2,636
受取手形及び売掛金 (含 電子記録債権)	17,010	40.7%	16,835	39.0%	△175
棚卸資産	7,802	18.7%	10,631	24.6%	+2,829
その他流動資産	127	0.3%	324	0.8%	+196
固定資産	8,164	19.5%	9,319	21.6%	+1,155
有形固定資産	6,097	14.6%	6,250	14.5%	+152
無形固定資産	509	1.2%	1,413	3.3%	+904
投資その他の資産	1,557	3.7%	1,655	3.8%	+98
資産合計	41,780	100.0%	43,149	100.0%	+1,369
負債及び純資産の部	2022年3月末	構成比率	2023年3月末	構成比率	増減
流動負債	21,903	52.4%	21,768	50.4%	△134
支払手形及び買掛金 (含 電子記録債務)	18,652	44.6%	19,020	44.1%	+367
未払金・未払費用	1,023	2.4%	1,050	2.4%	+26
未払法人税等	1,145	2.7%	579	1.3%	△566
その他流動負債	1,081	2.6%	1,117	2.6%	+36
固定負債	48	0.1%	151	0.4%	+103
負債合計	21,951	52.5%	21,920	50.8%	△31
純資産	19,829	47.5%	21,229	49.2%	+1,400
負債純資産合計	41,780	100.0%	43,149	100.0%	+1,369

流動資産+213百万円

- WCAS社持分取得、配当金増加による現預金減少
- 棚卸資産の増加

固定資産+1,155百万円

- 有形固定資産の増加
- 無形固定資産の増加
のれん+809百万円 (償却期間20年)
- 投資その他の資産の増加

流動負債△134百万円

- 1年内返済長期借入金+350百万円
※現在は完済済み
- 支払手形及び買掛金の増加
- 法人税支払 (未払法人税等減少)

固定負債+103百万円

純資産+1,400百万円

キャッシュフロー

- 棚卸資産積み増しおよび仕入債務の減少等（16億円）や、法人税等支払額の増加（10億円）等により、営業CFが前年同期比で減少
- WCAS社の持分取得により、△795百万円のキャッシュアウトフローを計上

(単位：百万円)

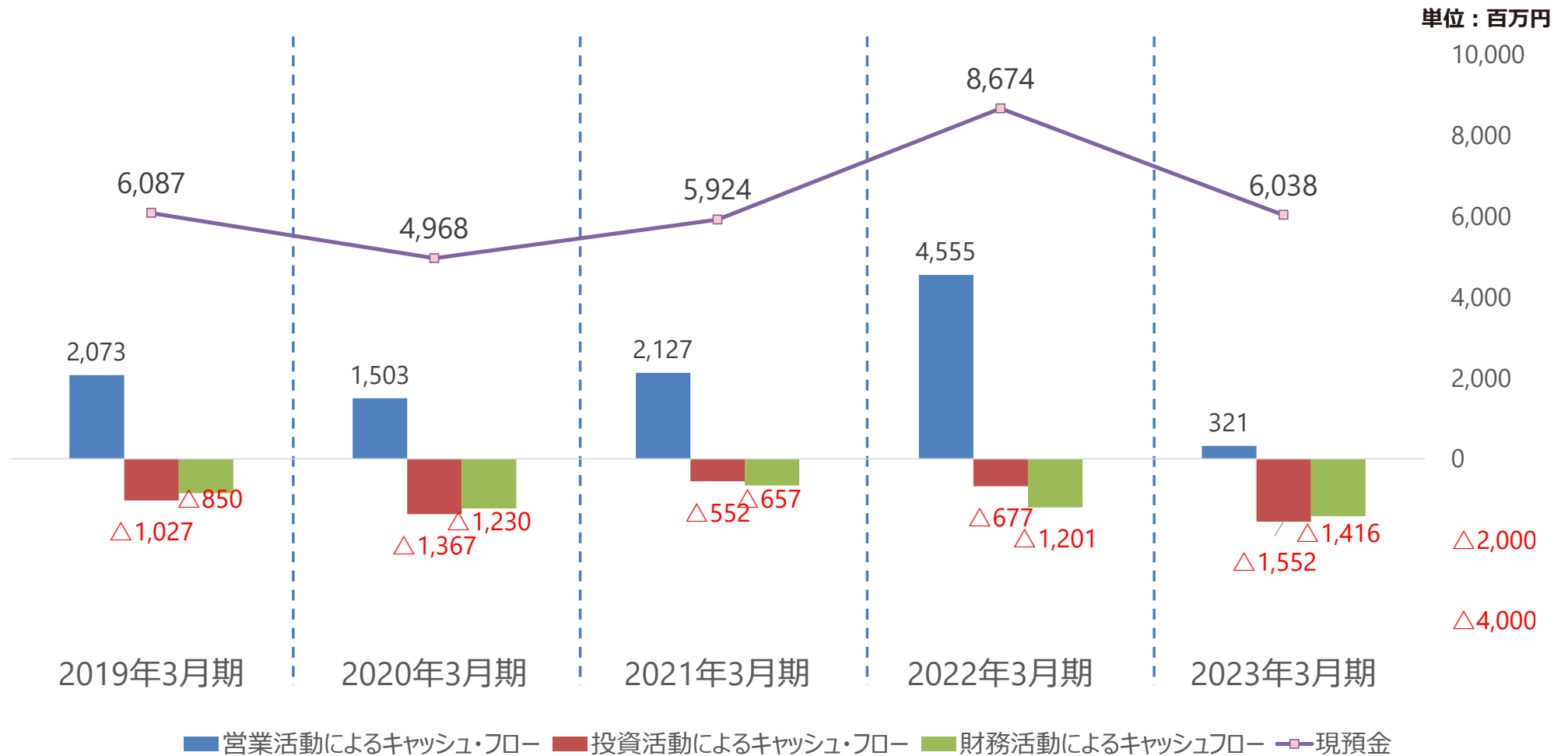
<主な内訳>

	2022年3月期	2023年3月期	差額
営業活動による キャッシュ・フロー	4,555	321	△4,234
投資活動による キャッシュ・フロー	△677	△1,552	△876
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,201	△1,416	△215
現金及び現金同等物 に係る換算差	73	11	△62
現金及び現金同等物 の期末残高	8,674	6,038	△2,636

- ① 営業活動によるキャッシュ・フロー
+321百万円
- ・税金等調整前当期純利益 : +3,988百万円
 - ・減価償却費 : +845百万円
 - ・売上債権の増減額 (△は増加) : +584百万円
 - ・棚卸資産の増減額 (△は増加) : △2,404百万円
 - ・仕入債務の増減額 (△は減少) : △163百万円
 - ・法人税等の支払額 : △1,810百万円
- ② 投資活動によるキャッシュ・フロー
△1,552百万円
- ・有形固定資産の取得に伴う支出 : △434百万円
 - ・無形固定資産の取得に伴う支出 : △261百万円
 - ・連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出 : △795百万円
- ③ 財務活動によるキャッシュ・フロー
△1,416百万円
- ・配当金支払による減少 : △1,416百万円

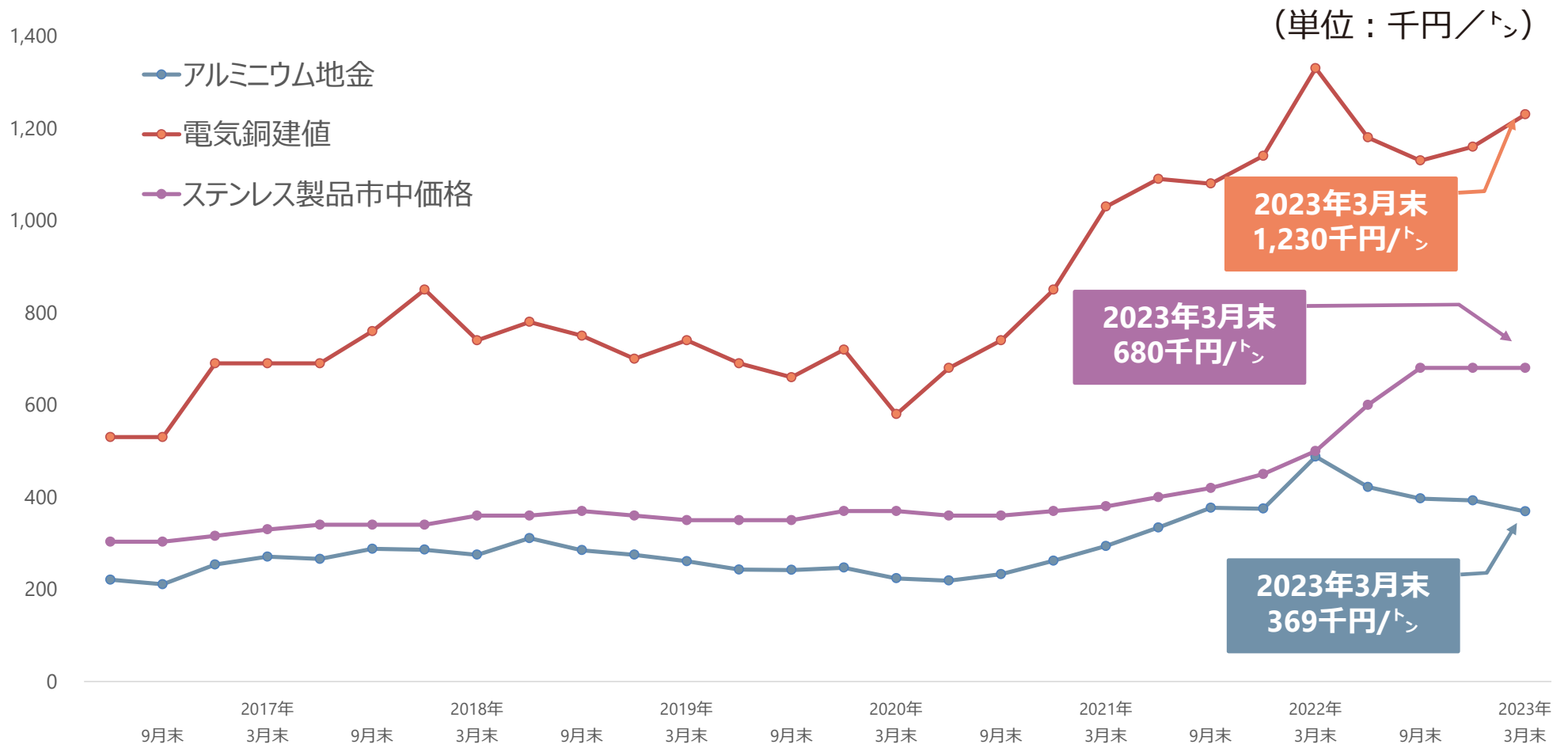
キャッシュフロー（年度毎の推移）

- 2023年3月期は棚卸資産増加や法人税等支払を主因として営業CFが減少
- 現預金は営業CFの減少以外に配当金の支払やWCAS社の持分取得等により、前連結会計年度から大きく減少したものの、安定した水準を維持



事業環境（1） アルミニウム・銅・ステンレスの原材料市況

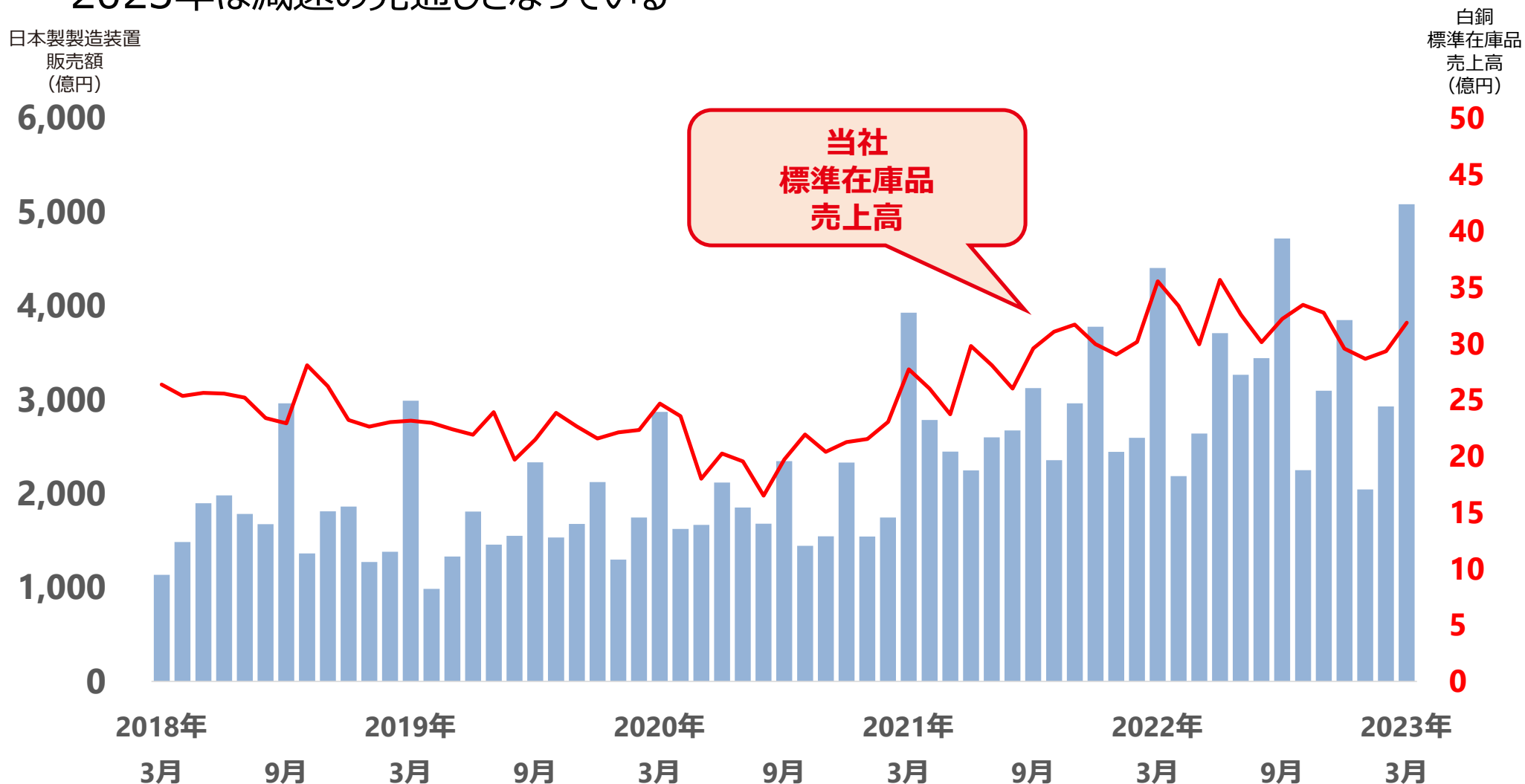
- 上昇を継続していたアルミニウムの原材料価格は2022年3月以降24%の下落
- 自動車向けを中心に国内需要が低下、足元の価格も下落基調



電気銅建値：JX金属による算出 ステンレス鋼板：鉄鋼新聞月別中心値
 アルミニウム地金：日本経済新聞月別平均値

事業環境（2）半導体製造装置販売額と標準在庫品売上高との比較

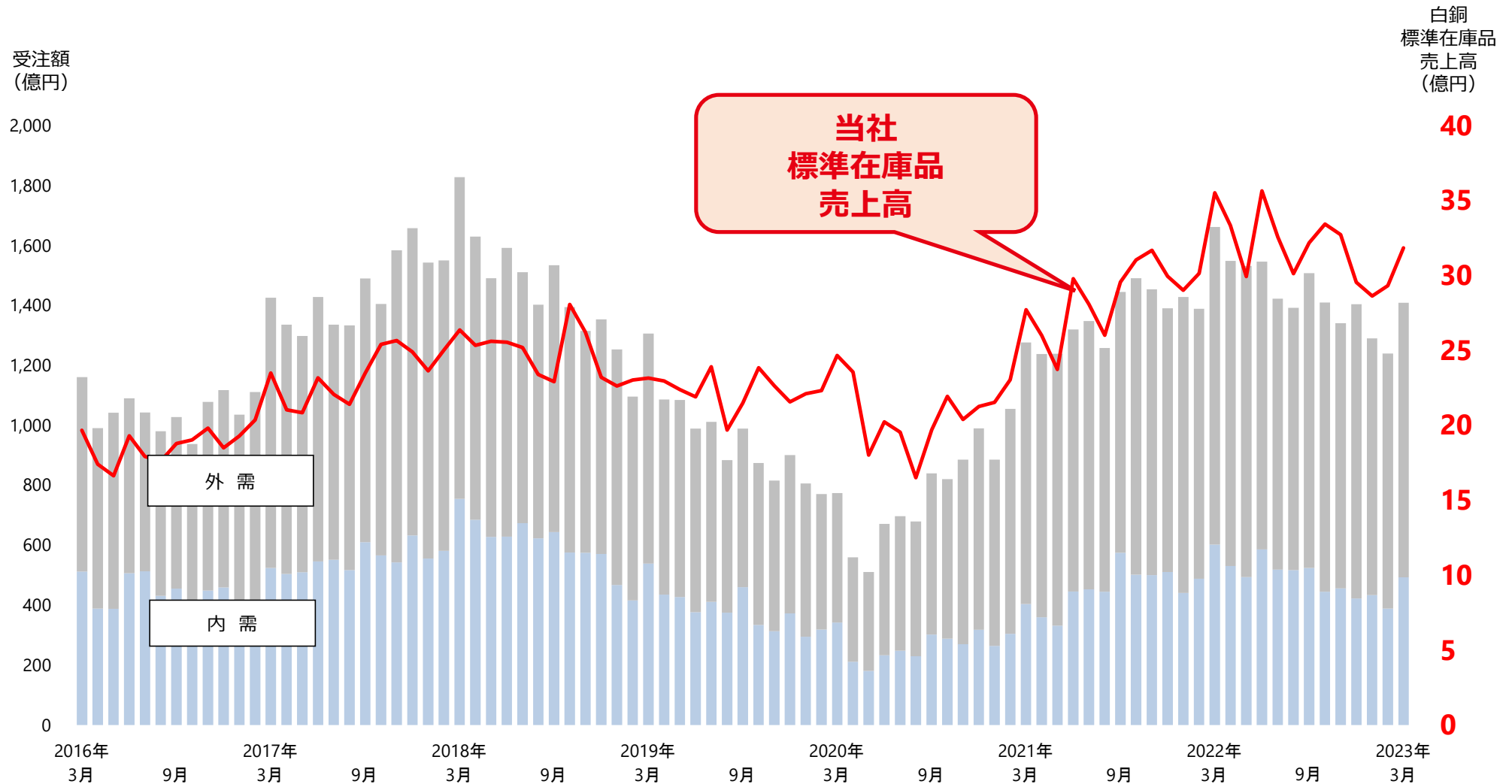
- 長期的にはIoTやDX、AIの推進などによる需要拡大が予想されているものの、半導体メーカーの在庫調整、生産調整による設備投資計画の見直しの動きが広がっており、2023年は減速の見通しとなっている



出典：日本半導体製造装置協会 統計データ

事業環境 (3) 工作機械受注額と標準在庫品売上高との比較

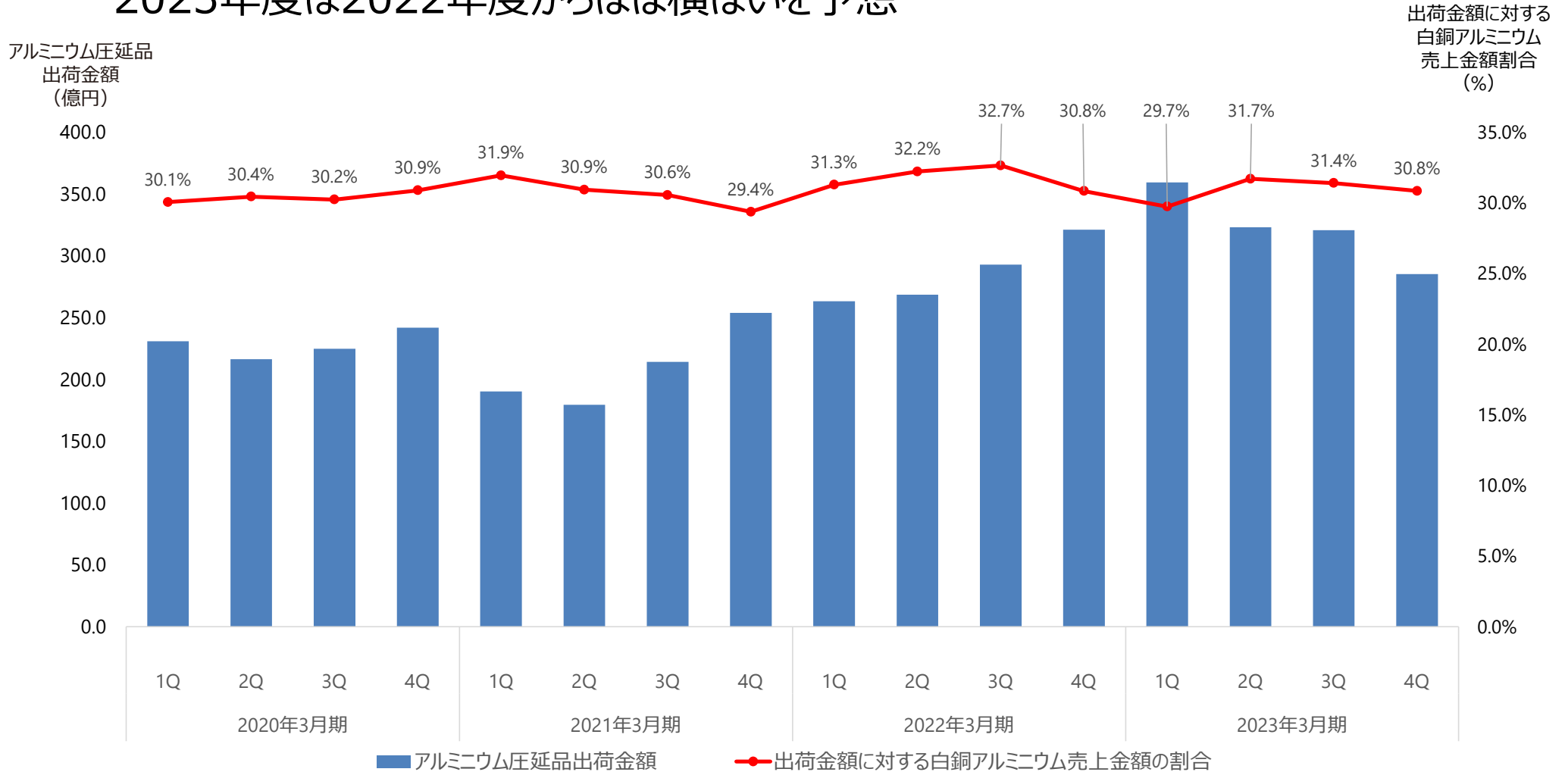
- 工作機械受注額は2022年3月をピークに下落の動きが継続
- 前年4Q(1~3月)期間比で外需は11%、内需は14%受注額が減少した



出典：日本工作機械販売協会 工作機械受注統計

事業環境 (4) アルミ圧延品出荷金額と出荷金額に対する当社アルミニウム製品売上割合

- アルミ圧延品出荷金額に対する当社アルミニウム製品売上は30%前後で推移
- アルミニウム協会が発表した【2023年度「アルミニウム圧延品」需要見通し】では、2023年度は2022年度からほぼ横ばいを予想



※ アルミニウム圧延品出荷金額は、板材(6.0mm以上)・円板・管・棒の合計

出典：一般社団法人 アルミニウム協会 アルミニウム圧延品統計月報より

2024年3月期 業績予想

通期連結業績予想

- 当社グループ業績に影響が大きい半導体製造装置業界で調整局面の継続が予想されており、2024年3月期予想は対前期比で減益の見通し
- 一方で、2024年3月期下半期以降、EV、IoTやDX、AIの推進など半導体需要は回復していくものと予想し、中期経営計画3年目の目標値は達成見込み

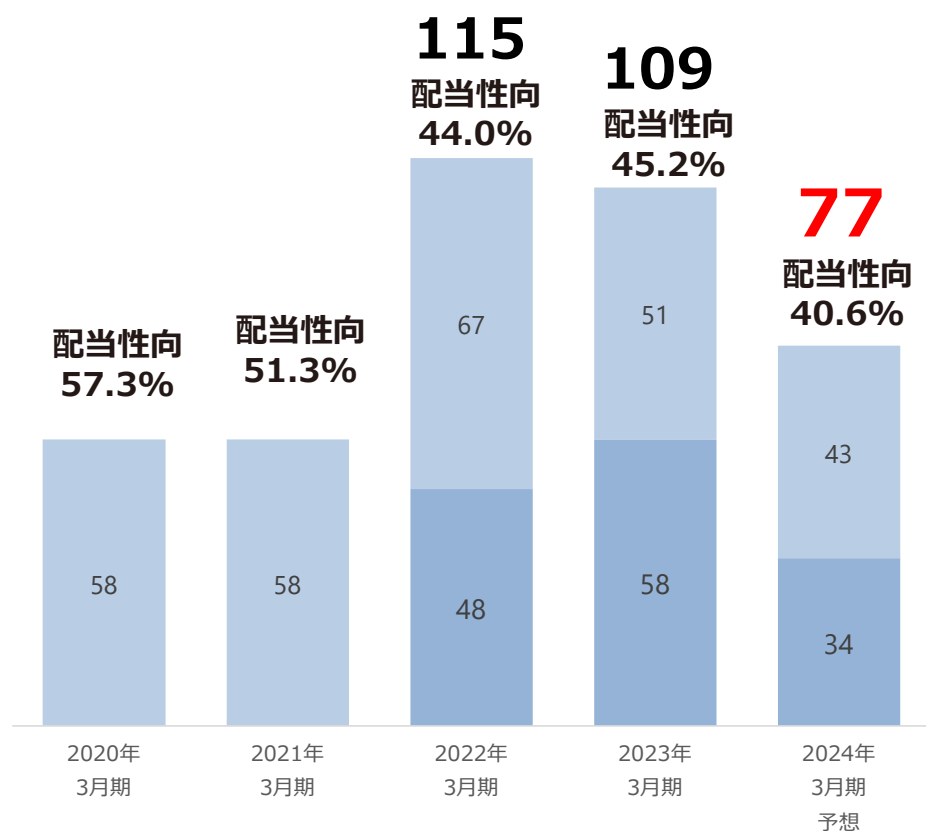
(百万円)	2023年3月期 実績	売上高 比率	2024年3月期 通期予想	売上高 比率	対前連結 会計年度 増減率	中期経営計画 2024年3月期 目標値	中期経営計画 2025年3月期 目標値
売上高	61,602	-	63,200	-	2.6%	66,800	71,800
営業利益	3,777	6.1%	2,970	4.7%	△21.4%	-	-
経常利益	3,988	6.5%	3,180	5.0%	△20.3%	4,500	5,400
棚卸資産影響額 (△は損)	499	-	0	-	-	-	-
経常利益 (棚卸資産・為替 影響を除く)	3,468	5.6%	3,180	5.0%	△20.3%	-	-
親会社に帰属する 当期純利益	2,737	4.4%	2,150	3.4%	△21.5%	-	-

※2024年3月期通期予想は、第1四半期連結累計期間までの棚卸資産影響額を見込んでおります。

株主還元策（配当/株主優待）

- 2024年3月期年間配当は1株あたり77円（前期比△32円）を予想

2024年3月期配当予想



下段 ■ が中間配当、上段 ■ が期末配当を示す。

※2022年3月期は記念配当9円を含む金額

株主優待制度

2022年3月期から株主優待制度を導入しました。毎年9月末の当社株主名簿に記載又は記録された3単位(300株)以上保有の株主様を対象とし、保有株式数に応じてポイントを贈呈いたします。贈呈されたポイントは、株主様限定の特設ウェブサイト「白銅プレミアム優待倶楽部」において、4,000点以上の厳選された商品からお好きな商品、他のプレミアム優待倶楽部導入企業の優待ポイントと合算可能な共通株主優待コイン『WILL s Coin』に交換することができます。

株主優待ポイント表（1ポイント≒1円）

保有株式数	付与されるポイント	贈呈時期
300株未満	0ポイント	—
300～399株	3,000ポイント	毎年11月
400～499株	5,000ポイント	
500～599株	10,000ポイント	
600～999株	20,000ポイント	
1,000～1,999株	30,000ポイント	
2,000～2,999株	40,000ポイント	
3,000株以上	50,000ポイント	

商品の一例



あたらしい、を、素材から。



中期経営計画1年目の進捗状況と 達成に向けた取り組み

中期経営計画1年目（2023年3月期）業績の振り返り

- 主力の半導体製造装置業界の停滞や、第4四半期にWCAS社持分取得に伴う一時費用126百万円の計上により、中期経営計画1年目は全項目で未達成
- 一方で、売上高は、販売単価上昇を要因とし、過去最高額を更新

	2023年3月期				差異	達成率
	実績値 (百万円)	売上高 比率	中期経営計画 目標値	売上高 比率		
売上高	61,602	-	62,100	-	△497	99.2%
営業利益	3,777	6.1%	3,970	6.4%	△192	95.1%
経常利益	3,988	6.5%	4,080	6.6%	△91	97.8%
棚卸資産影響額 (△は損)	499	-	118	-	381	-
経常利益（棚卸資産・ 為替影響を除く）	3,489	5.7%	3,962	6.4%	△472	88.1%
親会社に帰属する 当期純利益	2,737	4.4%	2,860	4.6%	△122	95.7%

経営目標・重要財務計画指標・株主還元を目指す水準

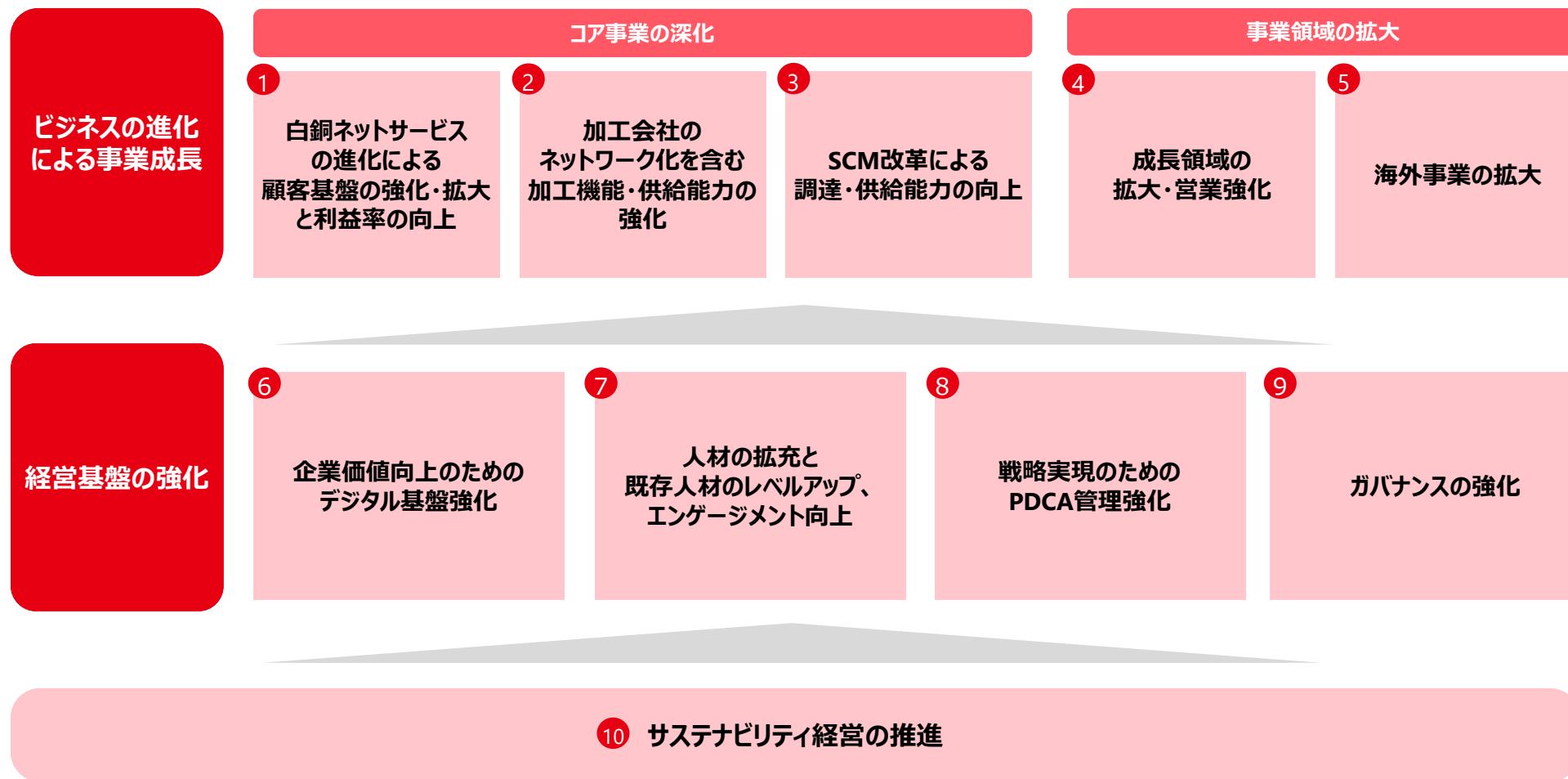
- 経営目標である売上高・経常利益の成長とともに、重要財務計画指標であるROICや営業CFの目標達成と株主還元を目指す

	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	2024年3月期 通期予想	2025年3月期 目標	
経営目標	売上高	554 億円	616 億円	632 億円	➔ 718 億円
	経常利益	43 億円	39 億円	31 億円	➔ 54 億円
重要財務計画指標	ROIC	15 %	12 %	9%	➔ 15 %
	営業CF	45 億円	3 億円	47 億円	➔ 47 億円
株主還元	配当性向 (記念配当3.4%含む)	44.0 %	45.2 %	40.6 %	➔ 40.0 %

中期経営計画の重点戦略方針

- ダントツ戦略をベースに、2025年3月期までにビジネス進化と経営基盤の強化及びサステナビリティ経営の推進を図る

経営課題と重点戦略方針



*詳細は2022年5月26日開示の「中期経営計画」をご参照ください

中期経営計画1年目（2023年3月期）施策の振り返り

- 海外子会社でのEC販売開始や、滋賀工場における自動検査梱包装置導入など、白銅ネットサービスの強化と供給能力強化などの各種施策を実施
- 2022年12月にHakudo USA Inc.を設立。翌年3月にWCAS社の持分取得を完了するなど、海外事業拡大へ向けた積極的な活動を展開

年月	施策の実施状況	関連する重点戦略方針
2022年4月	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 特注品営業本部に新たに海外営業部を新設 ✓ 営業部内で組織再編を行い、成長領域（半導体、自動車、航空宇宙）の顧客を特定部署に集約 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 成長領域の拡大・営業強化 ⑤ 海外事業の拡大
5月	✓ 会社として外部に初めて中期経営計画(2022年度～2024年度)を発表	⑧ 戦略実現のためのPDCA管理強化
6月	✓ 滋賀工場に自動検査梱包装置を導入	② 加工会社のネットワーク化を含む加工機能・供給能力の強化
7月	✓ 航空宇宙産業における世界標準の品質マネジメント規格である「JIS Q 9100」を全社取得	④ 成長領域の拡大・営業強化
10月	<ul style="list-style-type: none"> ✓ アルミ国内製品フォーミュラ化とロールマージン改定の実施 ✓ 白銅ネットサービス利用時のキャッシュバックキャンペーンの開始 	① 白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上
12月	✓ 個人別年間教育計画を作成し、全社員に対する説明会を実施	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ 人材の拡充と既存人材のレベルアップ、エンゲージメント向上 ⑩ サステナビリティ経営の推進
12月	✓ 米国カリフォルニア州に白銅の100%出資子会社「Hakudo USA Inc.」を設立	⑤ 海外事業の拡大
12月	✓ リスク管理委員会および経営管理本部システム部で、情報セキュリティマネジメントシステムの規格である「JIS Q 27001」を認証取得	⑨ ガバナンスの強化
2023年1月	✓ タイ子会社「Hakudo(Thailand)CO.,LTD.」でEC販売システムを使用開始	<ul style="list-style-type: none"> ① 白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上 ⑥ 企業価値向上のためのデジタル基盤強化
3月	✓ Hakudo USAによる「West Coast Aluminum & Stainless, LLC」の持分取得	⑤ 海外事業の拡大
4月	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 管理本部と経営企画本部を統合・改組して「経営管理本部」を新設 ✓ ESG・SDGsを推進する専任部門として「ESG・SDGs推進室」を新設 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ ガバナンスの強化 ⑩ サステナビリティ経営の推進強化

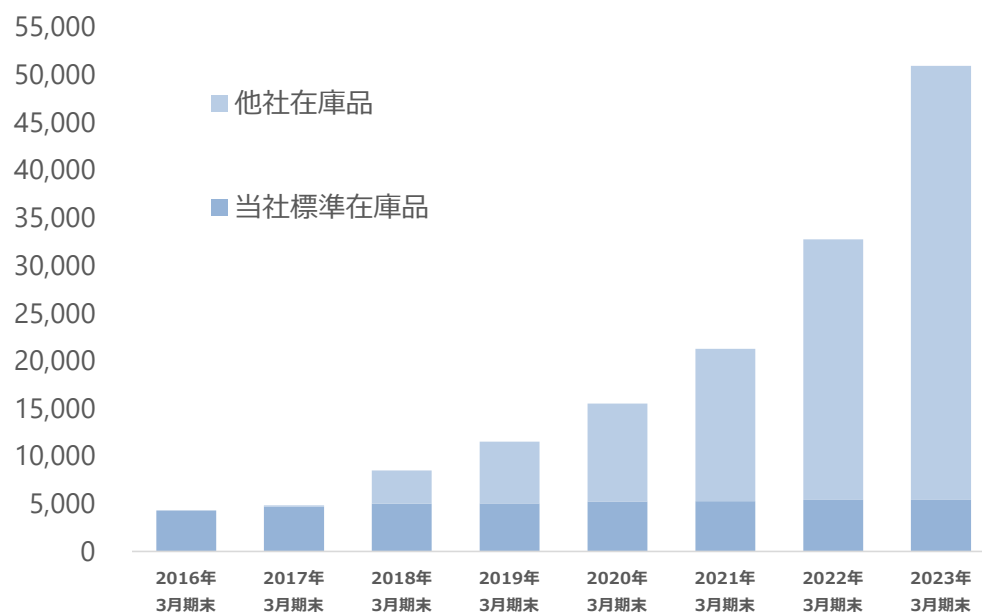
重点戦略の実施状況（1）

（1）白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上

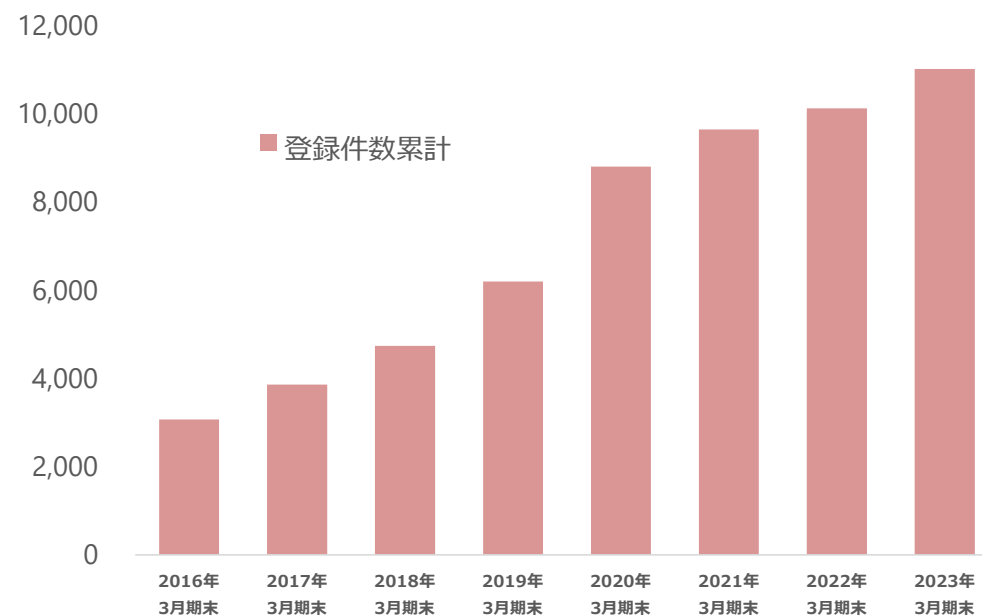
- ・他社在庫品を中心に取扱アイテムを拡充。当社標準在庫品と他社在庫品を合わせ、3月末時点で約50,900アイテムがご利用可能
- ・白銅ネットサービス登録件数は3月末時点で累計約11,000社に増加
流通業者のその先のお客様がご利用可能なCSネットサービスを展開



【白銅ネットサービス ご利用可能アイテム数】



【白銅ネットサービスご利用登録社数推移（累計）】



※CSネットサービスの登録件数を含む

あたらしい、を、素材から。



重点戦略の実施状況（2）

（2）成長領域の拡大・営業強化

◆ 航空・宇宙領域

- ・ 三重県伊賀市に新拠点（伊賀倉庫）設置。ウォータージェット切断機・マシニング加工機・ワイヤーカット機を滋賀工場から移管し、2023年4月から稼働開始

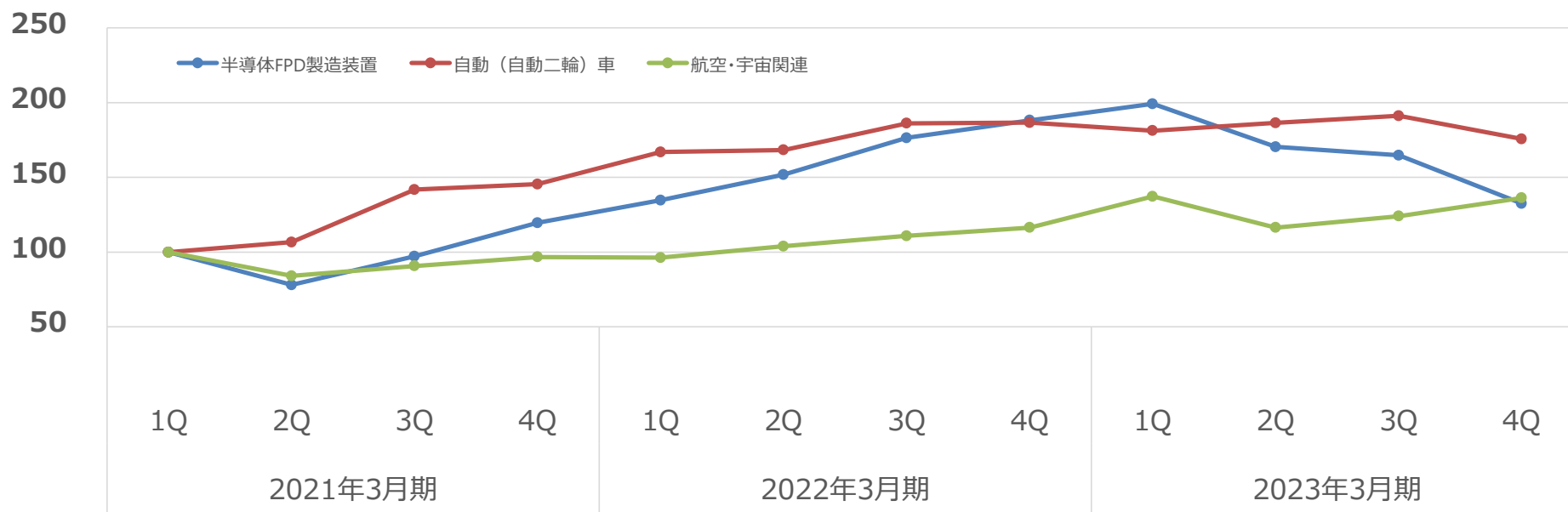
◆ 半導体領域

- ・ 半導体関連の販売先を専門部署に集約し、業界ナレッジを蓄積する仕組みを構築

◆ 自動車領域

- ・ 3Dプリンターを契機に自動車関連の新規顧客を獲得
- ・ 獲得した新規顧客に対し、他の商材の拡販を展開

【成長領域の売上高指数の四半期推移】



※2021年3月期1Qの売上高を基準とした売上高指数の推移

重点戦略の実施状況 (3)

(3) 海外事業の拡大

- 2023年3月に当社の100%子会社であるHakudo USA Inc.がWCAS社の持分取得を行い子会社化
- 2024年3月期は、2025年3月期目標値である白銅グループ海外売上高比率12%を前倒して達成する見込

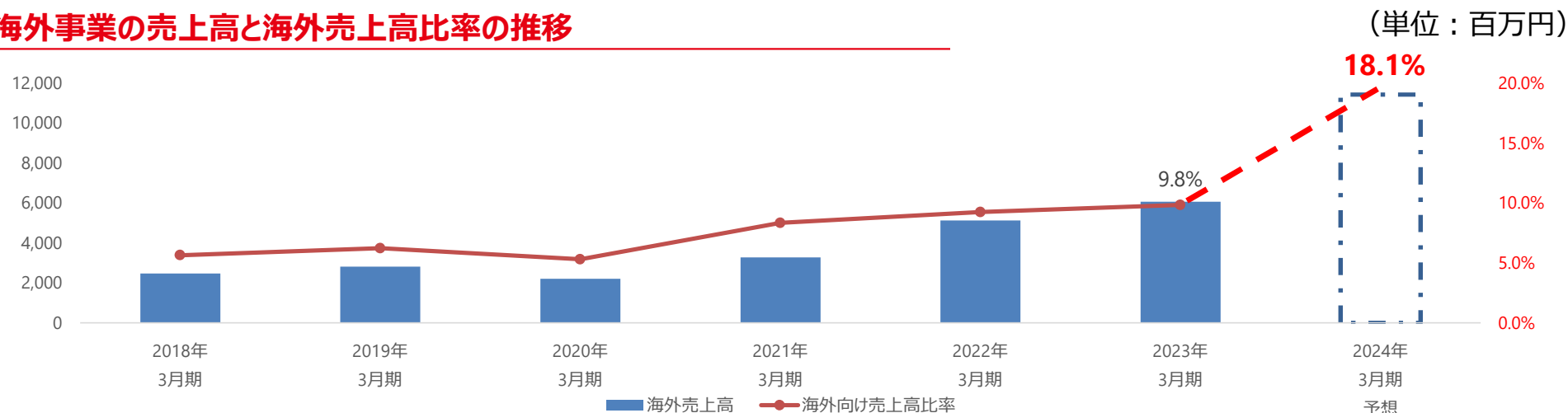
WCAS社の概要

所在地	16431 Carmenita Road Cerritos, CA 90703
CEO	Robert Lampi
従業員(2023年4月時点)	13名
事業内容	アルミニウム・ステンレス鋼の薄板流通業
品種別売上割合	ステンレス約5割、アルミニウム約3割
今後の方針	薄板販売メインのため、白銅が取り揃える商品を提供し厚板加工販売を拡大方針。また、白銅の持つECシステムを提供することで、販路拡大や経費削減等のシナジー効果も期待される。

資本関係図



海外事業の売上高と海外売上高比率の推移



※海外売上高は海外子会社売上高と海外子会社以外への本社輸出売上高の合計金額で算出

2024年3月期の取組予定

- 2024年3月期の重点戦略方針の主な取組予定は以下のとおり
- 海外事業拡大による売上高増加や、白銅ネットサービス進化による利益率向上により、中期経営計画の達成を目指す

重点戦略方針		2024年3月期 取組予定（一部抜粋）
ビジネスの進化による事業成長	① 白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 取扱アイテム数の更なる拡充、粗利益の増大 ✓ 白銅ネットサービス（CSネットサービス含む）利用者数の増加 ✓ 海外子会社におけるECサービスの導入
	② 加工会社のネットワーク化を含む加工機能・供給能力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 図面加工サービスの強化、自動見積機能の運用 ✓ ウォータージェット切断機・ワイヤーカット加工機等を用いた加工サービス強化
	③ SCM改革による調達・供給能力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 省人化・工場平準化のための自動加工機の追加導入
	④ 成長領域の拡大・営業強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 顧客ニーズのヒアリングとメーカーへの情報伝達 ✓ 新加工設備を活用した業界への拡販
	⑤ 海外事業の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 米国子会社の事業拡大・WCAS社とのPMI実施 ✓ 韓国・台湾についての出資先検討
経営基盤の強化	⑥ 企業価値向上のためのデジタル基盤強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ RPA・IoTを用いた業務効率化
	⑦ 人材の拡充と既存人材のレベルアップ、エンゲージメント向上	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 人事制度の見直し ✓ 従業員満足度向上に向けた福利厚生の拡充
	⑧ 戦略実現のためのPDCA管理強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 統合報告書の作成及び開示
	⑨ ガバナンスの強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ JIS Q 27001の取得範囲拡大

サステナビリティ経営の取組状況（1/2）

- ESG/SDGs経営委員会の下に設置した分科会の活動項目や目標に対して、現状までの取組み状況を下表に記載。取組み状況などを取締役会に報告し、提言や助言を踏まえて活動
- 気候変動対応及び人的資本対応に対する取組状況は、2023年6月の有価証券報告書に掲載予定

マテリアリティ	取組テーマ	2025年3月期までの活動目標	2025年3月期までのKPI ※1	2023年3月期取組状況
1.環境負荷軽減・気候変動対応	CO ₂ 排出量の削減	2020年度比で①2030年度までに42%削減、 ②2050年度までにカーボンニュートラル達成に向け、2024年度までの具体的な削減策に着手する	● CO ₂ 排出量	✓ 滋賀工場への太陽光発電の設置予定 ✓ FIT非化石証書の購入予定
	製造効率の改善	配送効率改善・産業廃棄物削減・スクラップ率低下などにより、天然資源の節約・枯渇抑制、環境汚染抑制による社会貢献を実現する	● 消費電力量 ● 運賃通減率 ● 廃棄物金額 ● 製造部門消耗品費	✓ 配送網の再構築による効率化など配送効率改善活動を実施 ✓ 設備の待機電力削減
	オフィスパーペラス化の推進	資源の無駄を排除し、リサイクル化を行うことで、コスト削減を行うとともに、森林保護等自然環境保護に貢献する	● オフィス印刷費用	✓ 電子化による会議資料の印刷費用の削減
2.責任あるサプライチェーンの構築	環境配慮製品の強化	環境負荷の少ない商品（ECO商品等）を安定供給することで、環境負荷に配慮した経営を行うことで社会貢献を行う	● ECO商品販売重量	✓ ECO商品チラシを作成し展示会での配布を実施
	グリーン調達の促進	白銅独自のグリーン調達ガイドラインを、サプライヤーに遵守協力頂くことで、環境負荷に配慮した経営を行うことで社会貢献を行う	● グリーン調達ガイドラインの遵守先との覚書取交件数 ● グリーン調達率	✓ 各取引先との覚書の取り交わし実施
	サプライヤーとの関係強化	サプライヤーと協力し、CO ₂ 削減に配慮した施策を行うことで、サプライチェーン全体におけるCO ₂ 削減を促進することで社会貢献を行う	● グリーンアルミ調達先発掘 ● リサイクルアルミ調達先発掘	✓ グリーンアルミ等の供給先候補をリストアップし交渉を開始
	人権の尊重	サプライチェーン上のパートナーと協力し人権に配慮した経営を促進する活動を行うことで社会貢献する	● 自社における人権ポリシーの策定	✓ 人権デューデリジェンスの一環として人権ポリシーを制定予定
3.社会への取り組み	次世代への貢献	日本のものづくりの発展や人材育成を支援することで、次世代の技術の発展や人材育成に貢献する	● 産学協働検討案件数	✓ 大学研究の展示会に訪問。協働可能な新規案件を模索
	社会への貢献	持続可能な社会への貢献を行うことで、従業員が誇りを持ち、社会から信頼される企業になる	● 地域社会、団体への寄付額	✓ 寄附型自動販売機を社内設置 ✓ 自治体、団体への寄付実施

※1 2023年3月期～2025年3月期の3か年間の社内におけるKPI（現状は具体的数値等は社外へ非開示）

サステナビリティ経営の取組状況 (2/2)



マテリアリティ	取組テーマ	2025年3月期までの活動目標	2025年3月期までのKPI ※1	2023年3月期取組状況
4.人材への投資	従業員満足度向上	従業員満足度の向上により、従業員各自の生産性や顧客対応へのモチベーションを高め、社会に与える影響力（社会貢献）、会社の業績に与える影響力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ● 離職率 ● 有給取得率 ● 重大なヒヤリハット件数 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 子育て、介護が原因で退職される従業員の防止策の検討 ✓ 福利厚生充実のための素案の作成 ✓ 職場巡視によるヒヤリハットの未然防止
	ダイバーシティの促進	多様な人材を登用、活用することで組織の生産性や競争力を高める	<ul style="list-style-type: none"> ● 女性従業員比率 ● 女性管理職比率 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 女性管理職研修及び女性管理職育成研修の実施検討
	社員教育の拡充	業務上で必要な知識・スキルの提供。また知識やスキルを身に着ける為の機会を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 一人当たり教育費用 ● 研修受講比率 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ スキルマップの不足項目の洗い出し・研修制度の見直し完了
5.コーポレートガバナンス	違反者ゼロ	ゼロ・トーランスを目指し、教育を実施する	<ul style="list-style-type: none"> ● コンプライアンス違反件数ゼロ 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コンプライアンス研修の実施
	ポリシー遵守状況確認	各ポリシーの遵守 ※現状のポリシー及び基本方針は以下の通り ・プライバシーポリシー ・コーポレートガバナンス基本方針 ・サステナビリティ基本方針 ・ディスクロージャー基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 左記ポリシーの対応状況確認 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 情報セキュリティ勉強会の実施
	事業リスク・災害への対応強化	事業リスク評価とBCP見直しを徹底。また、災害が発生しても訓練・対策実施により、従業員の安全確保と円滑に業務を再開する仕組みを作る	<ul style="list-style-type: none"> ● リスク評価ポイント ● 防災訓練等の実施数 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 全社一斉の安否確認訓練実施 ✓ 全事業所での防災訓練実施
6.ESG/SDGs経営委員会の社内浸透活動	社内浸透活動の推進	ESG/SDGsに関する啓蒙活動、イベントを行うことで、会社としてESG/SDGsに対する意識向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ● ESG/SDGsの従業員定着率（定期的なアンケートで調査） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ESG/SDGs関連のポスター・書籍・動画の配布・配信 ✓ 従業員へのSDGsバッジの配布 ✓ 白銅社内でのサステナビリティエピソードコンテスト・ポスターコンテストの開催 ✓ サンクスカードの導入（2023年4月～）

※1 2023年3月期～2025年3月期の3年間の社内におけるKPI（現状は具体的数値等は社外へ非開示）

サステナビリティ経営の取り組み例

白銅は、モノづくりを通じた社会への貢献に加えて、スポーツ振興や自社農園による雇用創出など幅広い活動を行っています。

スピードスケート



2022年4月にスケート部を創設しました。スピードスケートナショナル強化選手である伊藤貴裕選手（写真右）、土屋陸選手（写真左）の2名が所属しています。

白銅は、2026年ミラノ・コルティナオリンピックでのメダル獲得を目指す両選手の活躍を応援するとともに、スポーツ振興にも貢献しています。

白銅ファーム



白銅は障がい者就労促進の一環として白銅ファームを運営しています。2023年4月現在、4名の従業員が横浜市に在籍しており、葉物野菜をメインに約40種類を栽培しています。

また、2023年5月からは2カ所目となる白銅ファームを埼玉県三郷市に設け、新たに8名の雇用を予定しています。

収穫した野菜は、子ども食堂への寄付や当社従業員に配布しています。

スーパーミニマムチャレンジ



スーパーミニマムチャレンジとは、50ccエンジンによる最速記録に挑戦するプロジェクトです。米国ユタ州のボンネビルで毎年開催されています。

バイクには白銅が提供したアルミ材も使用された2019年大会では世界最速記録を更新しました。

最近では、3Dプリンター造形部品も使用されています。

コマ大戦



コマ大戦とは、全国の製造業者が本気で制作したコマを持ち寄って戦うトーナメント式の大会です。各県で高校生コマ大会も開催されています。

神奈川県高校生コマ大戦には白銅が材料を支給して協賛するなど、日本のモノづくりの発展のための活動を行っています。

下町ボブスレー



下町ボブスレーは、大田区の小さな町工場が中心となり、世界トップレベルのソリを作り、産業のまち大田区の「モノづくりの力」を世界に発信するプロジェクトです。

下町ボブスレーの材料は白銅が無償提供しており、製作されたボブスレーは2023年1月の世界選手権で19位の成績を残しました。

(写真提供：国際ボブスレー連盟IBSF)

※ 2023年4月末時点の情報を元に作成

ご清聴ありがとうございました

■ 白銅公式SNSアカウントについて

弊社では、LINE、Facebookの公式アカウントを開設し、商品紹介や展示会の出展案内などのお役立ち情報を定期的に発信しております。以下のQRコードから、是非、お友だち追加をお願いします！



■ 本資料における注意事項

この資料には、2023年5月現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競業状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

■ お問い合わせ先

白銅株式会社 経営企画課
メールアドレス：hkdkeiki@hakudo.co.jp
ホームページ：www.hakudo.co.jp